

一 教育方針

〔1〕 学校教育目標

郷土を拓く大地の教育

菅平の発展は、長い年月にわたる先人の開拓の上に打ち立てられており、子どもたちの教育は、先人から受け継いだ区民のたくましい開拓精神によって支えられている。

いま、国際化・情報化の時代をへて、社会が多様化し、新たな価値創出社会へと向かっている。本校では、菅平の自然・歴史・産業・文化を大事に受け止め、この郷土菅平の将来や広く日本の未来を一層拓くために、自立・自律をめざし、豊かな大地に学ぶ心を育てる教育をすすめる。

めざす子どもの姿（中期目標）

- ① 「自立・自律」自ら考え、判断し、行動し、責任のとれる子ども
- ② 多様性を受け入れ、他の人を尊重しながら、自己表現することができる子ども
- ③ 体験を通して心身を鍛える子ども
- ④ 郷土に誇りを持ち、郷土を愛する子ども

【学校長の願い】 「子ども理解を全ての教育活動のベースに」
「多様性を認め、多様性を包みこみ、多様性に応じた指導・支援」
「少人数の良さや強みを活かして、菅平だからできる教育活動を」

1 心の教育について

子ども理解を全ての教育活動のベースにし、教師自らが子どもの良さに気づき、伝え、児童・生徒の意識を啓発し、お互いの個性や立場、ものの見方、考え方を認め、寛容の心をもって謙虚に学びあい、教えあいができる集団作りを行う。また、子どもの自立・自律を最上位目標に据え、多様性を認め、多様性を包みこみ、多様性に応じた指導を展開していくことで、子どもたちの心を耕していきたい。

2 学力の向上について

少人数の良さや強みを活かして、菅平だからこそできる教育活動を展開し、「目的意識をもって学習していく」「自らの学び方の習得めざす」子どもの育成を念頭に置き、PCDA サイクルで常に授業改善に取り組み、学習面における子どもの自立・自律を促し、学力の向上を目指していきたい。具体的には、見届けたい子どもの姿（終末の子どもの姿）から「ねらい」や「身につけるべき力」、「授業展開」等を明確にした授業を行う。単元・授業展開では、「教えるべき場面」と「考えさせる場面」、「学びあい・教えあいの場面」などめりはりのある単元展開を構想するとともに、基礎学力の定着と主体的・対話的・協働的な学習の両立が行えるようにしていきたい。

3 キャリア教育について

菅平では80%以上の保護者が地元産業に就き、また25～35歳の男子卒業生の半数は菅平に戻って生活をしているという特徴がある。子どもたちや地域の将来を考えたとき、菅平の産業（農業・観光業）に携わりながら、地域の発展のために積極的に関わろうとする人材作りは欠かせない。そこで、重点目標を「菅平の産業に学び、郷土に生きる人材を育てる」とし、重点活動①を「この地に生きることの喜びを実感するために、地域との交流、体験を構想」重点活動②を「生活科、総合的な学習の時間やキャリア教育を通して、地域の農産業や観光産業を知る」として、この地に誇りと愛情をもち大切に育んでいきたい。

本年度の重点目標

- (1) 多様性を認め、多様性を包みこむ集団づくり
- (2) 一人ひとりが目的意識を持ち、自分なりの学び方を身につける子どもの育成
- (3) 菅平の産業に学び、郷土に生きる人材を育てる